



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



日頃から赤十字の活動にご尽力いただき、心から御礼を申し上げます。

今なお世界を震撼させている新型コロナウイルス感染症が確認されてから2年余りが経ち、この間、わが国においても、人々の生活や経済に与えたダメージは計り知れないものがあります。

日本赤十字社は、その当初から、新型コロナウイルス感染症との闘いに、文字通り社の総力を傾けてきました。特に、きわめて過酷な状況が続く中、感染者の受け入れや治療にあたってきた医療関係スタッフの一人ひとりに、私は、最大限の敬意を表するとともに、皆さまからの応援の声と心のこもったお力添えに深く感謝申し上げます。

そうした中、昨年も各地で豪雨災害が発生し、感染症のまん延下での救護活動という、これまでに経験のない課題にも取り組むこととなりました。

これら日赤の活動に対して、多くの個人、企業や団体などから力強い応援の声と心のこもったお力添えをいただきましたが、それは、何よりも関係スタッフにとって大きな励ましとなりました。改めて感謝を申し上げる次第です。

また、今年度、青少年赤十字が創設100周年を迎えます。大正11年に始まった小さな一歩が、現在では全国で300万人を超える児童・生徒が参加する事業に発展しました。生徒が主体となり寄付を募る国際支援や防災教育などを通じて、自ら気づき、考え、実行するという「生きる力」を育む機会を提供し、次代を担う、健康で豊かな心を持った青少年の育成に取り組んでまいります。

コロナ禍をはじめとする昨今の困難な状況に加え、国内外の急激な社会変動の中にあって、私たちが取り組むべき課題はさらに広がりを見せていますが、私は、人々がお互いに支え合い“連帯”することで乗り越えていけると考えています。国境を越え拡大していくさまざまな人道問題に対しても、日本赤十字社は、世界の仲間たちと手を携え、着実な活動を続けてまいります。

私たちは、赤十字とゆかりの深い5月を赤十字活動普及ための「運動月間」としてしています。皆さまには、本年も、温かく力強いご支援をたまわりますようお願い申し上げます。

令和4年5月

日本赤十字社 社長

大塚 義治